

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・M1

氏名: 善福 萌百香

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>他の発表者の発表内容や、ラボツアーにおける研究内容の説明を理解して、自分の研究に活かさないかを考えたり、知識を広げたりすることを目標にしていた。発表内容は、スライドやポスターの挿絵のおかげである程度理解できた。しかし、研究内容は、口頭説明であったうえに専門用語も多かったため、聞き取ることが難しく、半分程度しか理解できなかった。ラボツアーにおいては、自分の研究室と似た設備の場所があったが、使い方や気を付けている部分など、自分の所とは若干異なるルールがあった。現在気を付けている部分に加え、異なる部分を取り入れることで、より良い研究ができると考えた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前は、身振り手振りを活用すれば、言語が分からなくてもどうにかなると考えていた。確かに、ある程度、分かりやすいジェスチャーがある場合や、英語でメニューが書かれていた時などにおいては身振り手振りでなんとか自分の意見を伝えることができた。しかし、そうではない場合、言語が分からなければコミュニケーションがとれないと感じた。スマホの翻訳機能を使うこともあったが、時間がかかるため、スムーズなコミュニケーションがとれたとは言えなかった。そのため、海外に行くときには、使いそうな単語を、行き先の言語で、事前にある程度学んでから行った方が良いと思った。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前は、他の分野の研究についてあまり知識を持っていなかった。しかし、今回の研修に参加したことにより、他の分野の研究についてはもちろんのこと、自分の研究に関しても、視野を広げることができた。また、研修前には、自分の研究室のルールや研究の行い方についてあまり考えることはしてこなかった。しかし、研修中に、他の大学において、実際にどのように研究を行っているかを見たり聞いたりしたことにより、自分が行っている研究のやり方や自分の研究室のルールとの相違点に気づき、どのようにしたらさらにそれらを改善できるかについて考えるきっかけとなった。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修を通して、他の研究室を見学して自分の研究室の改善点に気づいたように、他の地方自治体にフォーカスすることによって地域社会の改善点に気づけるということが分かった。そのため、まず、他の地方を見て自分の地域の良さや改善点に気づくことが重要だと考えた。その後、改善するために何をすればいいかを考え思う。それらを、自分でもできるかどうか判断し、自分できそうなことは実行していきたいと思う。そうでないことは、例えば、イベントを企画したり、落ちていたゴミを拾ったりなど、規模を小さくして自分にできることから行っていけば、少しでも地域社会をより良くしていけると思う。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工・修士2年

氏名: 藺田佳菜子

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修では、シンポジウムへの参加と現地学生との交流が主な目的でした。シンポジウムへの参加においては、大学院生活において最後の学会発表ということもあり、今までの自分の研究成果をしっかりと発表することはもちろんですが、英語でしっかりとコミュニケーションをとって、自分の考えを伝えることを意識しました。これまでの国際学会では、しっかり意思疎通ができたなどという実感がわからない場合が多かったのですが、今回は相手の質問の意図を理解し、的確にこたえることができました。自分自身の研究に対してしっかり理解を深め、準備をしたので自信をもって発表することができたのが要因かなと思います。また、ポスター賞を受賞することができたのも本当にうれしかったです。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>台湾へは初めて行ったのですが、とても過ごしやすい印象を受けました。最終日は台北、それ以外は台南で過ごしましたが、台北・台南でも全然違うなと感ずることが多かったです。一番驚いたのは台南で英語が通じないことがあるということでした。現地の学生がサポートしてくれなかったら全く何もわからないということが何回かありました。世界共通の言語である英語を少し話せればどこへ行っても大丈夫だと思っていたのですが、そんなことはないんだと気づきました。今後旅行などをする際に現地の言葉を最低限少しは勉強していくべきだなと感じました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>最も成長させてもらった経験は、ポスター賞の受賞講演です。英語で10分間自分の研究内容をプレゼンする経験がなかったので最初は、ちょっと面倒だな、きついなと正直思っていました。しかし、友人の「でもこんな貴重な経験ないんじゃない？そう考えて頑張ろう」という言葉に感化され、やり遂げることができました。最初は面倒だな、いやだなとかネガティブな感情を持っていましたが、考え方を少し変えるだけでこんなにも変わるものなんだと身をもって体験できました。ネガティブな感情のままプレゼンをやっても何も得ることはできなかったと思いますが、私はこの経験を通じて少し自分に自信がついた気がします。これからの生活においても、ちょっとだけいい方向に考えてみるということ意識したいです。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私は4月から社会人となります。直接的に何かできることがあるかといわれると難しいですが、就職先が鹿児島県内ですので、会社でしっかりと大学院で学んだことを生かしつつ、たくさんのことを学び続ける意識をもって働くことが、何らかの形で地域社会の発展に役立つのではないかと考えております。社会人としての目標は、ずっと目標にしてた製薬に携わることができるので、責任感を持ち、様々なことを学びながら、薬を世の中に出すことを通して、人々の役に経つことです。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・1年

氏名: 高山 優香

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先では、研究成果の発表や日常的なコミュニケーションを主に英語で行ったため、英語を話す際の理解度が上がりました。自分の語学力では伝えきれないことをどのようにして伝えるのか、や英語自体が伝わらない人にどのように伝えるのかを常に考えながら生活を送りました。そのため、コミュニケーション能力や思考の瞬発性がつきました。また、学校同士の交流であったため、これまで触れたことのない分野についてもお話を聞く機会が多くありました。普段学ぶことのない分野の研究についても知ることができ、これからの研究に活かせるような知識もつきました。研修によって、モチベーションの向上もありました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地での生活を体験して気づいたことは、自分たちが思っているよりも英語が完璧でなくても海外で生活できることです。交流先の大学の人やホテルなどで働いている人と会話する際に、英語と加えてジェスチャーをすることによって伝えたいことを大方伝えることができました。そのため、海外に行くことに関して英語ができないから無理と感じる必要はあまりないのではないかと考えることができるようになりました。また、食や文化の違いを感じることもできました。道を歩いていると似ているような風景でも、売っているものが違うことが多くあり、その国ならではの当たり前があることを再認識できました。日本にいただけでは、得ることのない知見を得ることができました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>日常でみる英語に対して以前よりも委縮しなくなったことが今回の研修で最も成長した部分だと思います。大学で研究する際も英語には触れていましたが、英語に対して苦手意識を持った状態でした。しかし、研修の1週間常に英語に触れていたため、英語が特別なものであるという認識が消えて、委縮することがなくなりました。また、英語での会話が聞こえてきたときに無意識に認識できるようになりました。テレビなどから流れてきた英語を認識して、はっきりとはなくとも理解できるようになったことも研修を行ったことによる自身の変化であると思います。研修前と後で明らかに英語に対する意識が変わったように感じています。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>地域社会の発展のために今後取り組んでいきたいことは、今回得た知識をさらに応用して実験を進めることです。私は、将来薬剤の研究をしたいと考えています。私の行っている研究がすぐに地域社会の発展に役立つわけではありませんが、いつか薬剤として利用できるようになった時に役に立つのではないかと思います。そのためにも今は日々の研究を真剣に取り組んでいきたいと思っています。また、今回の研修は、研究に関与することも多かったため、それをさらに活用していきたいと思っています。今回の研修でつかんだことを忘れないようにして、いつか人の役に立つ研究結果を出したいです。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・1年

氏名: 山本直輝

授業科目名	国際学会特別研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私は、台湾の国立成功大学にて英語でのポスター発表を行いました。ポスターセッションでは、疎水性多糖の酵素的グラフト化を利用したキチンナノファイバーの疎水化というタイトルで台湾の先生方とディスカッションを行いました。英語でのディスカッションで非常に難しく、一部理解できず苦労しましたが、諦めずにディスカッションを行うことで有益な時間を過ごすことができました。さらに、海外の学生と積極的にコミュニケーションをとることで、実践的な英語学習に触れることができました。海外の大学の友人もでき、研究内容についてだけでなく、台湾の文化についても触れあうことができました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>台湾では、八角が使われている料理が多く、日本人は甘いと感じると伝えたとこ、台湾人は甘いと感じるのではなく、スパイシーに感じると聞き、感覚の違いを感じました。理由は、日本の使われた製品を輸入しイル店が多かった。また、現地で観光する際、スマホを使わずに英語で会話を使用と試みたところ、ほとんどの台湾人が英語を理解し、会話をするのができた。これは、教育による違いなのかと感じた。日本に滞在経験のある方に出会い、会話したところ英語を積極的に話しているし、理解しやすいと伝えられた。東京は、冷たく英語で会話できる機会が少なかったと言っていたため、国民性もあると思うが英語に対する考え方を改める必要があるのではないかと感じる。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私が最も成長を感じたのは、海外の学生との交流です。初日は、緊張もあり綺麗な英文で会話することができず、反省としてとりあえず会話をする事で経験値を積もうと考え、次の日に臨みました。分からない、英単語も多く苦労しましたが、会話をしっかりすることができ、成長を実感することができました。また、台北で観光する際にも積極的に話しかけることで目的地に着くこともでき、英語の実践にて英語力の向上を実感することができました。以前までは、きれいな英文を作ろうとしてうまくコミュニケーションをとることができていませんでしたが、とりあえず行動に移すことが重要であると考えようになった。また、積極的にそういった行動に移す機会が増えるにより習慣化し、就職しても活かすことができるのではないかと感じた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>観光を通じて、台湾の英語に対する意識が日本よりも強いと感じました。台湾も日本も第一言語ではないのですがなぜこのような差が生まれたのかと感じた。また、台湾の人は聞いたら無視する人が少なく、手助けしてくれるように感じた。日本に来た外国人は日本人が冷たいと感じることが多いため、外国の人を受け入れられるようなマニュアルの設定があるといいと考えた。なぜなら、異国の地で日本語を話している人を見つけると安心したため、マニュアル化されていることで安心して観光をすることができる。特に、飲食店で設けることで力を存分に発揮できると考える。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・1年

氏名: 重信佑樹

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の研修で英語を使用したコミュニケーション能力の向上と専攻分野以外の研究について基礎的な知見が身についたことが挙げられる。今まで英語は記述と発表の二つのみしか経験がなく、会話したのは初めての経験だった。その中でできるだけ簡単な表現で端的に伝えることが重要であることを学んだ。これは日本語でも当てはまることであり、聴衆側の気持ちを考えた発表をすることで伝える力が格段に上がる。ほかにも、AIや細胞など自分の専門外の発表を聞き、深くまで理解することは困難であったが基礎的な理論を知れた。自分の研究に活かそうな考えも発見したため、活用していきたい。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>日本が恵まれた国であると再認識した。母国は住み慣れているためそう感じるのは普通だが、水道水が気軽に飲めること、水洗トイレであることなど特に水関連は日本の方が充実していると感じた。一方、台湾の方が優れた部分としていい意味で人との距離が近いと感じた。お店やタクシーの運転手、現地の住人の方などすべて日本よりもフレンドリーに感じた。人に親しくされる喜びを久しく感じた。昨今の日本では様々なハラスメントが広がり窮屈を感じる。日本も基本に立ち返り、他人と自分の領域を見直すべきであると思った。国ごとに文化があり、他の国の文化を知りたくなった。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>海外への関心度が大幅に向上した。様々な分野の研究発表を聴講し、日本だけでなく世界にも熱い気持ちで研究している人がいることを肌で感じた。さらに、自分の研究発表にも耳を傾けてくれる先生、学生と議論することで様々な考え方を学んだ。そして、どの国の研究者も客観的な視点を持つことに優れており、研究者として優秀な人材は世界共通であると理解した。日本だけでも広いが、さらに世界にも視野を大きく広げることは自分の知見を大きく広げ、成長につながると確信した。これからの自分の生き方、仕事などのキャリアに海外で活動することを視野に入れるきっかけになった。今後の就職活動に活かしていきたい。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>地道に自分に課された課題をクリアしていくことが目標である。その一つとして、日頃の研究活動に全力を注ぐことが挙げられる。多くの学会発表や論文投稿、海外でのワークショップを通して自分の研究内容を発信していくことで鹿児島の研究力に貢献したいと考える。自分の好きな化学を通して、地元のアピールができると嬉しい。大きな目標には、これからの生活に貢献する製品を開発することが目標であり、化学の力を通して人生も地域社会も豊かにできたらと考えている。目標の人物として、稲盛和夫氏を目指してこれからも精進していこうと考えている。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年)：理工学研究科・修士2年

氏名：松尾 詩織

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>本研究で、英語で自分の研究を発表し、質疑応答を行いました。これまで3回英語での発表を行ってきましたが、英語が苦手な私は会話がスムーズに行きませんが、昨年に比べて英語での会話への抵抗が減ってきたと感じました。さらに、化学や生化学、ポリマー分野の研究室見学をさせていただき、他大学での実験の様子を見ることができて勉強になりました。すべて英語での会話であったため、専門分野の英語を聞き取る能力を上げることや、自分の専門分野以外の分野の新たな知識を得ることができました。また、疑問に思ったことを学生さんに英語で聞くこともできたため、以前より成長したと感じました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>昨年シンポジウムでアメリカに行った時も感じましたが、日本との違いに驚くことが多かったです。今回の台湾では昨年のアメリカと違い、環境の違いが大きかったです。特に、トイレトペーパーが流せないことや交通量が多く歩く人との距離が近いこと、夜市など食べ物屋さんが多いことなどがあります。対して、日本のチェーン店が数多くあることや日本語話せる方が多いことも驚きました。歴史的な背景もあると思いますが、学生さんもアニメなどを通して日本や日本語に興味を持つ方多かったです。現地のご飯屋さんなどのお店に去年のシンポジウムで知り合った学生さんが連れて行った下さったのもこのような交流あってのことだなと感じました。昨年のアメリカと比べて、台湾では似たようなところが多かったところも驚きの一つでした。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私は英語が苦手です。そのため、去年の国際シンポジウムではとても緊張してしまいました。しかし、今回のシンポジウムでは夏に6回の英会話の授業があり、英語での会話に少し慣れていたこともあり、以前より抵抗なく英語で会話ができるようになってきました。英語での会話を1対1で行うこともでき、成長を感じました。研究発表だけでなく、研究室ツアーや現地の学生さんと交流する時間があって英語での生活に慣れてきました。現地の学生さんのSNSでつながることもでき、今後も交流することができることも大きな変化だと思っています。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>このシンポジウムは今まで開催箇所を交替しながら、行われており、来年は鹿児島で開催されます。私は今年で卒業となり企業に就職しますが、今後別の形でこのシンポジウムに参加できることがあれば良いと感じております。近い目標としては、国際交流は違う文化を知るためには大切なことだとこの2年間で学んだため、企業に就職しても続けていきたいと思っております。来年私は鹿児島を離れてしまいます。そのため、昨年、今年と交流した学生さんが来年鹿児島に来ることがあれば、鹿児島でのおすすめのお店などを伝えて、鹿児島、日本を好きになってもらいたいです。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科 M1

氏名: 森永聖也

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先では、自分が行っている研究について英語で海外の人に発表するという経験から、プレゼンテーションスキルや自分の考えを発信するというスキルや、英語でのコミュニケーションスキルを学ぶことが出来ました。また、今回合同で行った台湾の成功大学や大阪大学の最新の化学分野の研究についての発表を聞く機会があり、化学分野に関する知見を広げることが出来ました。これらの経験から自身の研究についての自信につながりました。また、台湾の人たちとの交流を通して、海外の文化や多様性についての理解も深まりました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>初めての海外で不安なことが多数ありましたが、現地の人たちがとても優しく、積極的にコミュニケーションをとってくれたため、そんな不安もいつの間にかなくなっていました。また、台湾の人たちは日本の文化を好んでくれる人たちも多く、自分の趣味の話で盛り上がり、互いの文化の違いなどを話したりすると面白くて、とても貴重な時間でした。海外での研修を終えた今では、話す言葉は異なっても人と人とのコミュニケーションはいろんな手段で通じ合えると感じていて、自分の中でのコミュニケーションに対するハードルが下がったように感じます。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前はコミュニケーション面で受け身になってしまい積極的に話すことが苦手でしたが、現地の人たちとの交流を経て、お互いの趣味の話や研究活動の話、日本と台湾の違いなどを話して、相手を理解するということが自分の中で最も成長したところだと感じています。特に、趣味の話をしている時に、自分には縁がなかった分野でもどのようなものなのか、どこが面白いのかなどをしっかりと聞いて質問することで、理解しながら話をすることが出来ました。自分が熱心に耳を傾けたことで、相手もとても話しやすそうにしていたので、自分のコミュニケーション力が一歩成長したと感じました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修を通して、自分はまだ英語の勉強が不十分であると感じました。自分のポスター発表をするときうまく説明できずに相手を困らせてしまう場面がありました。大学院を修了するまでにあと1年あるため、この1年間は英語の勉強も研究活動と並行して行っていきたいと感じました。また、これから勉強する英語と研修で培ったコミュニケーション力を活かして、社会人として働いていく時に海外の人との仕事のやり取りなどを積極的に行っていって、日本の化学や生活に還元していきたいと考えています。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・1年

氏名: 赤池 駿弥

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先では、研究成果の発表やコミュニケーションを通して、自身の知見を広めることができました。また、英語でポスター発表や日常会話を行う中で、自身の英語力のなさを実感しました。そのため、自分の語彙力の中で伝えたいことを相手に伝えるためにはどうすれば良いのかなど常に考える生活を送り、コミュニケーション能力や思考の柔軟性が身についたと思います。今後も英語はもちろんのこと他言語でもこの経験を活かしていきたいと考えています。同時に自身の研究分野以外の研究についても知ることができ、これからの研究に活かしていこうと思います。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私は初の海外で、特に言語に不安を感じていましたが、自分たちが思っているよりも英語が話せなくても自分の言いたいことは相手に伝わるのだと知ることができました。台湾の方との会話では、相手の優しさに加え、ジェスチャーしながら話すことで意味をくみ取ってくださり、話すことができました。渡航する前は、英語ができないから海外に行くことは厳しいと考えている節がありましたが、実際はなんとかなるものだと考えることができるようになりました。また、会話することで現地の方々の習慣や考え方を学ぶことができ、多角的な視点を獲得することができました。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>言語の異なる方々との交流方法を学んだことが今回の研修で最も成長した部分だと思います。伝える言葉が正しい文法かなどを考えることも重要ですが、コミュニケーションで最も大事な部分は伝えようとする姿勢なのだと今回の研修で気づくことができました。現地の方々との交流はほぼボディラングレッジで行ったと思います。相手の方もこちらの意図をくみ取ってくれ、同様に私も英語が分からなくとも、相手が体を使って表現してくれたことで、相手の言いたいことを理解することができました。自身の伝えたいことを必死に表現することがコミュニケーションにおいて最も重要なものなのではないかと考えるようになりました。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回研修で得た知識をさらに応用して研究を進め、地域社会の発展に取り組んでいきたいと考えています。今行っている研究が利益に直結するとは限りませんが、今回の研修で得た知識、経験は必ず今後の社会の発展に繋げていけると私は考えています。そのため、今は研究に必死に取り組み経験を積んで、将来の自身の目標達成のための糧としていきます。また、今回様々な場所を訪れ、多様なことを学ぶことができたので、来年こちらで開催される時はこちらの文化や食を紹介していきたいです。他の方にも機会があれば、海外研修に参加することを進めたいと思います。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科 M2

氏名: 川久保唯人

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修では、自分の専門分野についての研究だけでなく、それ以外の分野についても深く知ることができた。特に、研究室訪問では、普段自分が使用しない機械や道具などを見ることができ、今後の実験の参考にできるような情報もたくさん得ることができた。また、エクスカージョンでは、台湾の歴史的な建物を訪れることで、台湾の歴史をより深く知ることができた。今回の研修を通して、自分の専門分野以外の知識をたくさん学ぶことができたため、今回の研修は非常に有意義なものであったと感じている。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地での生活を体験して、日本とは多くのことが異なっていることに気づいた。一つ目は食文化の違いである。台湾の料理は香辛料のようなものをたくさん使っており、日本ではあまり食べることのできない味をしていた。二つ目は、街並みについてである。今回訪れた台南では、街のあらゆる場所に豪華なお寺のような建物が建てられていた。また、バスケットのコートや陸上のトラックなどが街中に多くありたくさんの人が運動をしていた。以上の二つのことが、私が現地での生活を通して気づいた日本との主な違いである。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修の前と後で自身が最も変化したと感じる部分は、誰とでも話せるようになったことです。私はよく人見知りをしてしまう性格だったのですが、今回の研修を通して、あまり人見知りすることなく誰とでも話せるようになったと感じています。初めての海外だったこともあり、わからないことがたくさんあり、現地の人に話しかけて教えてもらう場面がたくさんありました。このような体験を経験していく中で、気づけば誰とでも人見知りすることなく話せるようになっていました。社会人になっても初対面の人と話す機会はたくさんあると思うので今回の経験を活かしていきたいです。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私は今後、地域社会の発展のために、様々なボランティア活動などに参加してみようと考えています。ボランティア活動では初対面の人と活動することが多くなります。そこで、今回の研修を通して成長した誰とでも人見知りすることなく話せる力が必要になってくると考えています。ボランティア活動を通して、自分が今回成長した部分をさらに成長させながら、人々の生活がより快適になるように自分の力を使っていきたいと感じています。そして最終的には言葉が通じない異国の相手でも人見知りしなくなるような人間になりたいと考えています。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科2年

氏名: 村田 光紀

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先の先生が行っている研究内容を学会で聞き、自身が取り扱っているものとは異なっていたが、新たなアプローチとしての知識を得ることができた。自身の学会発表では、ポスター発表と口頭発表を行い、質問をしていただくなかで応答などとてもいい機会を得ることができた。また、国際学会での口頭発表はとても大きな経験となった。さらに、今回、国際学会のため、英語で話す必要があり、今現在の自身の英語力が不足していることを痛感するとともに工夫しながら伝えることができた。今後も英語を必ず用いていくことが考えられるため、話す力を向上させたいと感じた。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>台湾での生活では、昨年アメリカへ行っていたこともあり、難しさはあまり感じなかった。台湾の方との会話では、相手の優しさのおかげもあり、意味をくみ取ってくれたこともあり、少しは話すことができた。初対面の人と話すことは苦手だが、今回は、話す中で、英語が聞こえてきたので、現地の方と積極的にコミュニケーションを取ることを心がけた。自身の英語が拙い中で笑顔で接していただけて、何度もトライすることができたので、会話するときの表情がとても大切であることをあらためて感じた。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>昨年に多くの経験をしたため、最初から現地 of 学生との交流を大切にしようと考えていた。さらに、昨年の経験から、初めて海外の学生と交流する日本の学生へのサポートを心がけた。最初、現地の方と会話することを控えていた学生巻き込み会話をすることによって、最後は本人自身で積極的にコミュニケーションを図ろうとしていた。今回の研修では、これまで以上に周りを見て行動することができるようになったのではないと思う。また、現地の学生も優しく、言葉に詰まったときでも待ってくれていたため、笑顔と積極性が大事だとさらに感じた。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回、自身が研修として台湾へ訪問したが、英語力が弱いことを痛感した。そのため、今後英語の力を向上させ、今後多くの海外研修に参加したいと考えている為、その際はより流ちょうに会話ができるようにしたい。また、今回、多くの場所に連れて行ってもらったので、来年、鹿児島大学で開催される際は、色々な場所、食べ物を紹介したいと思う。研修では、会話はできないつらさを体験した中で、工夫して伝えることなど、多くのことを経験することができたため、他の人にも機会があれば、海外研修に参加することを進めたいと思う。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・M1

氏名: 谷山 駆

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>成功大学や大阪大学の先生方の研究に関する講演の聴講や、それらの大学の先生方や学生との英語を通じた化学分野の研究に関するディスカッションを行った。また、成功大学でのラボツアーや懇親会を通して、台湾の学生と有意義な交流も経験することができた。今回は英語を通して研究情報を共有する初めての機会であり、相手と円滑にコミュニケーションをとることあまりできなかったが、この研修を通して、自身の研究に有益な情報を得るとともに、英語を用いた国際的なコミュニケーションスキルや論理的な説明力を向上させることができたと考えている。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修を通して、台湾の大学である成功大学の学生と交流する機会があったのだが、台湾の学生は日本の学生よりもフランクで、社交的であり優しい人が多いように感じた。私自身英語があまり得意ではなく、台湾の学生とコミュニケーションをとる際も、伝えたいことをうまく英語で表現できず、相手を困らせてしまうことが多々あったが、そのような時も優しく、私のペースに合わせてくれる人が多く、非常に会話しやすかった。また、台湾は食文化が非常に多様で豊かであった。日本では見たこともない、驚かされる見た目や味の料理が多く、台湾の食文化の奥深さを感じた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前後で、視野の広さが変わったように感じた。研修以前は、学会などでも自身の研究に関することしか目を向けなかったり、知識を持っていない分野に興味を持つことはできなかったが、今回の研修中で開催された台湾でのシンポジウムで、成功大学や大阪大学の様々な考え方もつ学生や先生方と積極的に情報交換や研究に関するディスカッションを行うことによって、あらゆる分野への興味・関心が湧き、視野を広げることができたと感じている。また、帰国後も、自身の研究以外の分野に関しても積極的に調査する機会が増え、研究活動への意識が良い方向に変化したと感じている。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の研修中に台湾の成功大学で開催されたシンポジウム(TJBW)は、来年度、自身が在籍している鹿児島大学で開催されることが決定しており、私も参加する予定である。そのため、鹿児島の歴史、文化、価値観を誤解されることなく、確実に台湾から参加される学生や先生方に伝え、理解してもらおうことで、鹿児島の魅力を多くの外国の方々に認知してもらえるように、鹿児島に関してさらなる理解を深めていきたいと考えている。また、英語でのコミュニケーション能力もまだ不十分と考えているため、その点の向上にも努めていきたいと考えている。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・M1

氏名: 谷生 裕隆

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私は、今回、台湾での国際学会に参加することで、英語をコミュニケーションの主体に自分の研究について、人々に説明をするという機会を得ることができた。自分の研究についての理解度を高める必要があるのは、もちろんのこと、英語で自分の研究を発表し、相手からの専門用語を踏まえた英語の質問に答えることで、より難易度が高い英語でのコミュニケーションを実感することができた。また、台湾の学生は、英語のスキルが高く、日本人より英語に触れ合う機会が多いので、私も日本に帰国してからも自ら英語に触れ合う機会を増やして行きたいと感じた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>台湾での生活において、日本の生活と大きく異なると感じたのは、夜12時ごろには、ほとんどの飲食店が閉まり、道路を走る車もほとんどいなくなることである。また、英語を話せる人の割合が、日本に比べてはるかに多いことを肌身で感じた。日本人がどれだけ、日本語だけで日ごろ生活しているか、英語能力が海外の人々に比べて劣っているのかを実感することができた。このままでは、日本は多くの国に社会的に遅れを取ってしまうと思うので、私は、自ら英語に触れる機会を増やして、英語力を日々向上させて世界から遅れを取らないようにしていきたいと思う。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>日本で生活をしていて、英語でコミュニケーションをとる機会が少ないため、英語を自ら進んで英語を話したいとは思わず、英語でコミュニケーションをとることに少し恥じらいを感じていたが、台湾では英語でコミュニケーションをとることが当たり前で、英語を話すことに恥じらいがなくなった。また、台湾の九份で歩いているときに、シンガポールから来ている観光客の方に道案内を尋ねられ、コミュニケーションをとっていると、「東京に行った時、ほとんどの日本人は英語を話せなくて困ったが、君たちの英語はとても上手で、こんなに英語でコミュニケーションが取れて嬉しい」と言ってもらえることができた。このことも英語でコミュニケーションをとることの自信に繋がった。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>台湾での国際学会や活動を通して、強く感じたことは、英語でのコミュニケーションの重要性である。日本では、英語を話せることが非常に素晴らしい能力であると評価されるが、海外では英語を話せることが当たり前で、英語を話せないと生きていくことができないレベルである。そのため、今後日本は、必ず英語力がより世界から求められると思うので、まず自分自身の英語力を高めて、日本でより英語力が求められて来るなかで、自分の英語力と研究内容に関する知識を組み合わせることで貢献していきたいと思っている。そのためにも、また今後海外での学会にも積極的に参加していきたい。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所 属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科 修士2年

氏 名: 中川 純

授業科目名	国際学会特別研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修先では、学会参加および現地の研究室において研究の説明を受けました。学会では、化学分野の先生方による講演を聞き、また、自身は簡単な研究内容の説明のためのスピーチおよびポスターによる研究発表を行いました。ポスターによる研究発表では、自身の研究を丁寧にわかりやすく伝えることができ、そのおかげで優秀ポスタープレゼンテーション賞を受賞することができました。また、受賞者として、10分間の口頭発表を行い、英語での研究発表という貴重な経験をさせて頂くことができました。一方、現地の研究室の研究説明は自身の研究室に活かせる学びとなりました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回渡航した国は台湾であり、公用語は台湾華語(北京語をベースとした言語)とのことだったので、基本的に英語でコミュニケーションをとることが多かったのですが、日本語を話すことができる台湾の方が少数ですがいたので、自分の言いたいことが伝わりやすかった印象があります。一方で、英語が伝わりにくかったため英語圏よりも英語でのコミュニケーションが難しい印象でした。台湾の文化は、日本と同じアジアであるので食事や宗教観には馴染みがありました。また、街のいたるところでバイクが走っており、駐車スペースも路肩の店だとバイクしか止められないようなところがほとんどだったことを覚えています。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>私は今回の研修の後では、余裕を持った行動がとれるようになりました。海外渡航経験は今回の研修で4回目であったため、海外渡航には少し慣れている程度でした。海外へ渡航する際、人との連絡をとるためにはインターネット通信のための契約手続きをしなければならないことがほとんどです。しかし、私は渡航先のホテルやその他施設のWiFiを使えば手続きは必要ないと考えたため、この手続きをせずに台湾に行きました。実際には、WiFiが無い場所での連絡が必要になる場面が多く、結局、現地の携帯会社で手続きを行うこととなりました。この教訓から、何事も前もって準備することで余裕を持った生活を送れるようになりました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の研修を通して、英語習得の重要性を痛感した。台湾で英語を使ってコミュニケーションをしようとしても、コンビニとかだと伝わらないことが多く、この現象は日本でも同じことが言える。各企業で日常会話の英語コミュニケーション研修や自主学習を通して、英語習得の機会を増やすべきである。そのため、私は日常英語の学習を習慣化していく予定である。また、改めて日本の生活水準の高さを感じ、それに感謝するとともに、本当に必要であるのかを吟味し、考える機会を作っていこうと感じた。今ある生活のありがたみを家族や身の回りの人に伝えていきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・M2

氏名: 中島裕太

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の研修では、英語でのショートスピーチとポスター発表を行った。ショートスピーチでは、他大学の学生や先生方に短い時間で自分の研究を伝えなければならなかったため、要点を強調して話すことに気がついた。また、ほかの人のスピーチを見ることができた事で、上手なスピーチのコツなどを理解した。ポスター発表では、分野の違う学生に自分の研究を説明することの難しさを感じた。基礎的なところを説明するためには応用部分も幅広く知っておく必要があり、自身の知識不足な部分を発見することができた。また、日常会話だけでなく専門的な英語能力の向上も必要であると感じた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の研修で気づいたことは、国立成功大学の学生の研究に対するモチベーションの高さであった。知り合った台湾の学生と話をする、研究時間や他分野の研究に関する探究心が自分より高いと感じた。その背景には、台湾の大学の厳しさと将来的に研究者になるという明確なビジョンがあるのではないかと考えた。自身の研究に対する姿勢を見直す良い機会となり、帰国してからより実験に対するモチベーションが向上させることができた。日本以外の国で生活を送ることでその国の背景からくる学校の文化を知ることができたことは良い経験となった。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私は、英語でのコミュニケーション能力が向上した。研修前は英語でのコミュニケーションが取れるか不安であったが、台湾で様々な人と関係を築いていく中で、理解と伝えようとする気持ちの大切さを感じた。そのように感じたのは、成功大学での研究室見学ツアーの時である。様々な研究室を見学していく中で、分野の違う研究室もあり、専門的な用語が多く理解することが困難であった。しかし、自分の理解できる範囲の質問をすることで専門的な言葉がわからなくても、ほかの言い回しなどで理解することができた。知りたいという好奇心を持つことが英語でのコミュニケーション能力の向上に繋がった。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私は今後、自身の化学に関する知識を生かして、社会で問題になっている環境問題やコロナウイルス感染などに対する対策を行なっていきたいと考えた。自身の研究では、コロナウイルスや神経疾患に關与する糖を有機化学的に合成するという研究を行なっている。この研究が進行することで、病気に対する薬品の開発や早期発見に貢献することができる。また、環境や食などにおいても化学的な視点から、情報の正誤性を確認することができると考えた。また、今後、社会人になったら、税金で学ばせてきてもらったということを忘れず、社会に還元していきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士2年

氏名: 中野佑美

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>TJBWのシンポジウムを通して、自身の研究内容についての発表・説明を行える能力を養うこと、そして様々な研究分野に触れることで新たな知見を得ることが目的である。今回のシンポジウムでは、前回のシンポジウム以降英語学習を続けていたため、比較的スムーズに聞き取ることが出来た。また、自分の研究内容に関わりのない分野であっても以前よりも知識が身についたためか、英語であっても理解ができるようになっていた。そして、自身の研究発表についてもただ発表するだけでなく、質疑応答にて相手の質問内容を理解し対応できるようになった。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>台湾の方々は英語圏だけでなく、日本からの旅行者が多いのか、英語および日本語での説明書きが多く存在した。基本的には英語でのコミュニケーションが多かったが、中には英語よりも日本語の方が得意な方もおり、日本語で話しかけてくださる方もいた。日本にも街中に文化財が存在することがあるが、台湾は日本と比較して、さらに身近なところに文化財が存在していることが分かった。またその影響か、日本よりも気軽に歴史に触れ、学べるような環境があるように感じた。特に、成功大学の学生であれば無料で入場できる場所や、美術館では日本の学生であっても学割の対象になったため、学生の学びに精力的に取り組んでいるような印象を受けた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の研修の前後において、大きく変化したことは、自身の研究分野以外の内容を以前よりも理解できるようになり、質疑応答等のやり取りができるようになったことである。昨年参加したNDSU-KUシンポジウムでは、NDSUの研究内容や施設の紹介の際、聞き取れない部分や専門知識の不足から内容が理解できない部分が多々あったうえ、伝えたい英語がすぐに出てこなかったため、疑問に思っても質問することが出来なかった。しかし、今回は以前よりも聞き取れるようになり、自分がどこを理解できていないのか、またどこを疑問に思ったのかを相手にスムーズに伝えられるようになった。また、返答に対してさらに質問をするといった形を取ることが出来た。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>現在取り組んでいる研究テーマは、CO₂の分離膜である。この研究テーマにおいて、現在得られている結果より、これまで発表されたものよりもより良い性能の分離膜を作製することが出来たため、CO₂排出削減に向け、実用化に向けた基盤として貢献できるのではないかと考えている。残り少ない学生生活で自身の研究について可能な限り突き詰めていきたいと思っている。また、今後の目標としては社会人になってからは製造職になるため、化学品をより効率的に生産しつつも、生産工場の現場周辺の環境保全や安全性など、地域の人々の見えないところで地域のためにできることを行っていきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科 1年

氏名: 通山 理嘉子

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>成功大学と大阪大学との3大学で自身の研究内容を英語で、2分半ショートスピーチおよびポスターセッションにより発表した。また、自分と違う分野の研究内容を聞き、知識の幅を広げた。高校時代の短期留学経験から英語のヒアリングはよくできたと感じたが、自分の伝えたいことを英語で伝えることに苦戦した。英語には苦手意識があったが、研修先の学生や先生と積極的に英語でコミュニケーションを取り、国際交流ができた。自身の研究の専門分野の英語を習得できたこと、知識の幅を広げられたこと、国際交流による異文化理解ができたことが自身の学習成果となった。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>台湾での約10日間の生活において、英語を積極的に話しやすい環境であったと感じた。母国語が英語でない国同士での会話は、自身が伝えたいこと、相手が伝えてくれることを慣れない英語で伝えるため、お互いに理解しあいたいという気持ちが強く、積極的に英語で会話できたと思う。台湾の方々の英語は非常に聞き取りやすかったのが印象に残っている。さらに、日本語が話せる人や日本の文化を知っている方も多かったため、とても過ごしやすく不自由なことはなかったように感じた。台南は甘いものが多く、食文化の違いには適応しきれなかったと感じた。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>台湾の成功大学でラボツアーに参加し、研究への取り組みを見て、自身の研究に対しての知識量や勉強量などの圧倒的な多さに感激した。また、成功大学の学生はみんな英語を話せていた。研修前は、自身の研究について与えられたテーマとしてゴールに向けて進めていたが、知識がまだまだ足りていないと痛感し、もっと勉強したいと感じた。また、英語が苦手なだけでなく、人前での発表や人見知り初めての環境での交流など、苦手意識を感じる場面が多かったが、英語で積極的に現地の学生や先生とコミュニケーションが取れて、繋がりを持ったことで、少し自身がついたと感じた。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>自身の研究成果を、学術論文に掲載できるように日々の研究を意味のあるものにしたと考えている。また、研究で得たスキルや化学の知識などを社会に出たときに活かせるような職について、社会へ貢献できるように成長していきたい。さらに、地域社会の発展に化学の力を活かしたいと考えており、例えば、地域の産業や農業において、効率的で環境に優しい肥料や農薬の開発によって、地元の農業コミュニティを支援し、持続可能な農業の推進に寄与するなど、このようなことに携われるように、日々勉強していきたい。化学の力を活かして地域社会の発展に寄与し、健康で持続可能な未来を築くことに、関わっていきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・1年

氏名: 堤萌夏

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先である台湾ではシンポジウムに参加し、他大学の先生方や学生が行っている研究についての発表を聞きました。自分が行っている研究の分野以外についての発表も多くあり非常に難しかったですが、積極的に話を聞きに行き、新たな知識を多く得ることができました。また、私自身もポスター発表を行いました。英語で自分の研究について説明することは難しかったですが、多くの先生や学生が聞きに来てくださり、多くの人に私の研究について知ってもらうことができました。発表も数を重ねていくうちに慣れていき、最後の方にかけて比較的スムーズに説明することができるようになりました。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>台湾には9日間滞在しました。この9日間の台湾での生活を体験して得た気づきは、「現地の人々の温かさ」です。台湾での生活では多くの人と関わりました。台湾の学生は常に笑顔で私たちに対応してくれました。また、街中で困ったことがあった際に現地の人に尋ねると、丁寧に教えてくれたり、一緒に調べてくれたりしました。最近では日本でも外国人の観光客が増えてきました。異国の地で分からないことがあると、いつも以上に焦ってしまいます。そのような時、温かい対応をしてもらうと人はとても安心します。そのため、私も困っている人がいたら積極的に助けてあげられるような人になりたいと、台湾での生活を通して強く思いました。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私は人見知りをしてしまうため、初対面の人と話すのが得意なタイプではありません。受け身になってしまい、相手が話しかけてくれるのを待ってしまいます。しかし、今回のシンポジウムの目的は学生間の交流であったため、受け身ではなく積極的に話に行こうと決意し、ご飯会では積極的に学生に話しかけに行きました。その結果、初対面の人と話すことに対して徐々に抵抗がなくなっていきました。後半では広く周りも見るできるようになり、1人である学生に話しかけに行けるような余裕も生まれました。このような積極性を得られたことが、研修前と研修後で成長した点であると私は考えます。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私が地域社会の発展に寄与するために今後取り組んでいきたいことは観光ボランティアへの参加です。台湾研修では現地の方が台湾の魅力をたくさん教えてくださいました。その結果、私は台湾が大好きになりました。この経験を通して、私も日本の魅力を外国の人に伝えたいと思いました。日本のそれぞれの地域で食べ物や場所など、ぜひ食べてほしい物や見てほしい場所がたくさんあります。ガイドブックには載ってない魅力的なものもたくさんあるはずです。それらを外国の人にはたくさん知ってもらいたいです。より分かりやすく簡潔に伝えられるように、これからも英語を積極的に学んでいきたいと思えます。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科 M1

氏名: 福井志笑

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修では、日ごろの研究成果の報告やディスカッションが中心でしたが、特に印象的だったのは台湾の学生との交流でした。彼らがどのように研究に取り組んでいるか、また彼らの大学や研究室を見学することで、新しい視点やアプローチを学ぶことができました。シンポジウムでは、自分の専門分野とは異なる学生たちに研究内容を説明する機会もありました。その際、専門外の方々にも理解しやすいように、わかりやすく説明することに努めました。その結果、専門外の視点からの質問や指摘を受け、これまで気づけなかった新たな視点を獲得することができました。この経験は非常に貴重であり、今後の研究に活かしていきたいと思っています。</p> <p>さらに、研修では研究だけでなく、台湾の歴史や文化にも触れることができました。現地の暮らしを体験することで、異なる文化に触れる貴重な機会となりました。台湾の歴史や文化に触れることで、世界観が広がり、研究以外の面でも成長することができました。今回の研修は、学術的な視点だけでなく、個人的な成長にも大きく影響を与えたと感じています。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>台湾では、儒教の教えや歴史を振り返り、その考え方を大切にす文化に感心しました。食事文化も興味深く、漢方薬草を食材とした料理が多く、地域の歴史や伝統が息づいていることを体験しました。台湾での生活を通じて、日本との社会インフラの違いを強く感じました。特に、台湾の歩道の状況は衝撃的でした。台湾の多くの地域では、歩道に段差や整備不足が見られ、車いすを利用する人や高齢者にとっては生活が困難な環境であることが分かりました。この状況を目にすることで、日本のバリアフリーな社会インフラのありがたさを改めて実感しました。</p> <p>さらに、台湾の水道システムにも違いを感じました。台湾では、水道水が飲用可能とされていますが、下水処理の設備が整備されていない地域も多くありました。日本では当たり前利用している下水処理の設備が整っていない状況を目にすると、日本の水道システムの整備度の高さに感謝の気持ちを新たにしました。水道システムの整備は、生活の質と健康に直結する重要な要素であることを痛感しました。</p> <p>台湾での経験を通じて、日本の社会インフラの充実度や安全性、便利さについて再認識することができました。また、異なる文化や環境に触れることで、世界の多様性をより深く理解する機会となりました。これらの経験を通じて、今後はより広い視野で物事を捉え、国際的な視点を持ち続けたいと考えています。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>これまで、英語で他者と交流する機会がほとんどありませんでした。さらに、研究内容を話すこともなかったため、研修参加前は、英語でのコミュニケーションや研究内容についてのディスカッションに不安がありました。しかし、実際に台湾に行くと現地の人とコミュニケーションのためには、英語を話さざるを得ず、必死に伝えようと努力しました。はじめは英語がなかなか伝わらず苦労しました。ところが、積極的に会話をすることで相手も理解しようと耳を傾けてくれるようになり、意思の疎通がとれるようになりました。拙くても伝えようという意識が大事だと思い、研修が終わる時には英語を話すことについて苦手意識がなくなりました。結果的に、この経験は英語力の向上だけでなく、コミュニケーション能力や自信の醸成にも繋がったと感じています。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>台湾での研修で海外との研究者と交流することの意義に気づくことができました。これは自身の研究グループ内でディスカッションするだけでなく、広い視点で物事を見るのが大切だと考えます。そのため、今後は、自身の研究が社会にどのように貢献できるのか常に考えながら研究活動を進めていきたいです。また、グローバルな視点でも物事を考え、発信できるように、語学力の向上を目指して行きたいと思っています。これまで自分の研究に集中していましたが、海外の研究者と交流することで、自身の研究がどのように国際的な視野で評価されるかを知ることができました。国際的な交流を通じて、自分の研究が持つ価値や意義を再確認することができ、今後の研究活動に大きな影響を与えることができました。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士2年

氏名: 福吉安寿実

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>台湾の国立成功大学にて研修が行われた。学習内容としては、まず、ショートスピーチの後、ポスター発表を行い、国立成功大学や大阪大学の学生・教授と研究テーマに関するディスカッションを通じて研究交流を図った。英語での分かりやすい研究内容の説明、質疑応答での適切な回答を意識して発表を行うことができた。ポスター賞を受賞することはできなかったが、研究に対するモチベーションを高める良い機会であった。また、研究室訪問で他分野の研究テーマに触れる機会を得た。専門分野外の研究紹介を通じて新たな視点からの知識を得ることができた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>昨年も国際学会特別研修に参加した経験があったため、事前準備を十分に行うことができ、前回よりも気持ちに余裕をもって現地での生活ができた。また、英語という言語の壁に関して、正しい英語を話すことよりも伝える姿勢や意思の方が重要ということを前回の研修時に学ぶことができたため、今回の研修では前回よりも気負わずに自分から積極的にコミュニケーションをとることができた。日本に興味をもって、日本語を学んでいる学生が多く、研修中に開催されたエクスカージョンでは台湾の学生が日本語で通訳しながら台湾の歴史紹介をしてくださったことに驚きを感じたと同時に、私も他国の文化や歴史を積極的に学んでいこうという意識も高まった。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>私は今回の研修を通して、コミュニケーション力が上達したと実感する。私は初対面の人に話しかけたり、会話をしたりすることが苦手であるため、ウェルカムパーティーでは日本人の集団から抜け出して現地の学生と交流する勇気が持てなかった。しかし、価値あるチャンスが無駄にしたくないという気持ちが芽生え、自分から周りの日本人を巻き込んで交流するように心掛けた。ありがたいことに今年のシンポジウムで交流し、私のことを覚えていた台湾の学生2人を通してコミュニケーションの輪を広げることができ、これからの財産となる多くの経験を積むことができた。また、今でも現地の方とSNSを通して交流を続けるほど仲が深まった。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の研修を通して、困難や課題に挑戦することの楽しさや難しさを強く実感することができた。また昨年参加した時に比べて語学力の成長はもちろん、国際交流の内容をさらに深めることができた良い経験だった。これまでの私は、人がやらない新しいことに挑戦する際、ネガティブな感情が優先されてしまい、一歩がなかなか踏み出せないことが多かった。しかし、今回の挑戦によって自分の新しい姿や成長を多くの場面で感じる事ができ、挑戦に対する考え方が良い方向に変わった。あと数か月で社会人になるが、何事にも積極的に挑戦し、努力し続けていきたいと思う。また、研究室の後輩にも今回の研修の魅力を伝えることでさらに国際交流を盛り上げていきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科 1年

氏名: 福田一紗

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先では、成功大学と大阪大学とのシンポジウムを通じて、研究内容のショートスピーチ、ポスターによる説明や、それぞれの大学の教授の研究内容の講義を受けた。またエクスカージョンとして、成功大学の生徒たちとともに観光地や台湾の歴史を学べる場所などに行った。学習成果としては、英語でのコミュニケーションスキルが上がったと思う。日常会話だけでなく、研究内容に関する議論を教授たちと行ったことにより、専門的な英語に関しても学ぶことができた。また、各大学の教授による講義で、幅広い分野のより専門的な知識を得ることができたと思う。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地での生活を通じて、異文化に対する理解の大切さを改めて認識することができた。食生活をはじめ、日常生活を送る中で、日本と異なる文化を多く体験することができた。しかしそこで、異文化だからといって、否定するのではなく、その文化に対する敬意を持ち受け止めることで、さらなる異文化理解につながると考えることができた。また、自分の英語でのコミュニケーションスキルの低さを実感することができた。生活する中で、共通言語である英語でしか会話できないことがほとんどであり、なかなか自分の伝えたいことを伝えることができない場面が多くあった。グローバル化が進む今の世界で、英語でのコミュニケーションスキルは今後より必須であると思うので、スキルの向上を目指していきたいと思うことができた。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前と後での自身の変化は、英語で会話することへの違和感の減少だと思う。初めの頃は、普段の日常会話を英語で会話することに違和感があり、自分の伝えたいことなどを瞬時に英語に変換することが難しかった。しかし、日が経つにつれ、徐々に英語で会話することへの違和感も減り、自分の伝えたいことも完璧な英語ではないが、頭の中に浮かぶようになってきた。特に、研修終盤で自分の行きたい場所が分からず現地の方に道や生き方を尋ねた際に、今までの自分よりも英語での会話のテンポが速くなっていたことに気づき、自身のスキルの向上を実感することができた。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>地域社会の発展に寄与するために今後取り組んでいきたいこととしては、大学、大学院を通じて学んだことを社会に還元していきたいと考えています。今現在、有機化学、生物化学を主に学んでおり、将来は医薬品業界の仕事につきたいと考えています。高齢化が進む世の中で、これからの医薬品の需要はさらに高まってくると思います。さらにコロナウイルスのような未知の感染症や疾患などの拡大もこれから起こる可能性があります。このような世の中で、これまで学んできたことを生かし、人々の健康を守ることができるような医薬品を作っていきたいと思っています。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・M1

氏名: 野中 翔

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先では英語を介して、化学(高分子化学、有機化学、無機化学、光化学など)について自身の研究を用い、他国の学生や先生方と交流し、議論を交わすことを行ってきた。英語を使った発表は普段の日本語とは異なるため、自身の伝えたいことを言語化し、上手く伝えることに苦労した。しかし、なるべく簡単な単語を用いつつ、身振り手振りや図、写真を積極的に用いることで相手に何とかして自身の研究について伝えるように努力した。その結果、定量的な評価ではないが、言葉が通じ辛い相手であったとしても、うまく工夫して伝えようとする力が身についたと考える。また、リスニング部分で苦労することもあったが、回数を重ねたり、分からない場合は恥を忍んで、もう一度発言してもらうことで研修前は、英語に対するリスニング能力も向上したと考えている。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私が研修先で感じたことは、公共の乗り物(電車や新幹線など)はほとんど変わらないにも関わらず、自動車に関しては、日本と比較すると車よりバイクの方がはるかに多いことに驚きました。その中で、日本と変わらないインフラが整っていたとしても、地域性や生活スタイルで移動方法が大きく異なることに気づいた。またその他の生活では、水に対する意識が高まった。日本の生活では、蛇口から出てきた水については何も考えることなく口にできた。しかし現地では、蛇口の水はおろか、飲食店で提供される飲み水や氷についても気を付ける必要があり、この経験を経て改めて日本は水環境に恵まれていることを確認することができた。また、今後の水の使用についても意識を改めたいと考えた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私が感じる研修前後の成長は、英語に対する苦手意識の改善だと考えます。日本にいた間は、国際学会があったとしても周りは日本人が多いため、比較的日本語を用いて会話を行ってきました。しかし、今回の研修では、常に英語を使う必要があり、学術的な交流に限らず、生活するためにも英語を使い続けてきました。その結果、初めこそ相手の方に話しかけることを躊躇していましたが、途中からは自身から積極的に話しかけ、交流を図ることで、研修修了後も連絡を取る仲にまでなりました。この経験から私は、英語に対する苦手意識を減らすことができ、むしろ用いる機会があれば積極的に使いたいという心持を持つことができるようになりました。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私の今後の取り組みとして、他国間の異文化交流の機会を増やすことを考えています。具体的には、相手国の文化を研修で学び、その文化と日本の文化を掛け合わせたイベント(お祭りや文化交流)を開催し、一つのイベントで両者の文化を学べる機会を提供したいと考えています。また、企画や発案だけでなく、英語を使って両者間の会話をサポートできる存在になり、異文化交流を促進しやすくできればと考えています。これにより、地域社会の発展の一步目となると考えています。また、この取り組みがある程度、定期的に行えるようになった場合には、2国間だったものにもう一か国加えるなどの試みによって、より幅広い文化理解の機会を提供できないかと考えています。</p>	

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科 修士1年

氏名: 和田 詩帆

授業科目名	国際学会特別研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>研修先では、自分の研究分野とは違った研究発表を視聴できる機会が多くあり、いろいろな視点から多くの研究テーマについて考え、学習することができた。また、自身の学習の成果については、2分間のショートークと1時間程度のポスター審査を英語で発表することができたということを挙げる。その際、今まで授業でしか英語に触れてこなかった私にとっては、英語(または日本語以外の違う言語)で伝えることの難しさを実感した。しかし、リスニングに関してはわかることが多かったことがうれしかったので、今後英語力を極めていきたいと思った。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>現地での生活を体験して気づいたことは、英語も日本語も通じる場所があることと、英語も日本語も通じない場所もあるということだ。実際に、ホテルの受付では、日本語が通じたことにより、スムーズにチェックインができた。朝食も日本人が食べやすいものも多く、快適なホテル生活を過ごすことができた。また、台湾は日本よりタクシーの乗車料金がかなり安く、アプリでの予約も容易でき、待たずにタクシーを利用することができるため、タクシーに乗る機会が多かったのだが、そのタクシーでは英語は通じなかった。現地に行くまでは、日本語は通じなくとも英語であれば通じると思っていたので驚いた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>研修前には自分から英語に触れに行くことはほとんどなかった。実際に、アルバイト先で英語を話すお客様がいらしても、話すことを避けてしまっていたこともある。しかし、研修後には英語を学ぶことにすごく興味が出てきて、留学も視野に入れるようになった。現地で思い切って英語を使ったり、ジェスチャーを使ったりして会話をした時に伝わったことのうれしさや、楽しさを感じるすることができた。夜市に行ったときには値引きの表現の仕方や冗談の言い方を学び、使いこなせている実感もわいてきた。今後、少しでも英語に触れるために、TOEICの勉強をしたり、個人的な海外旅行も経験したいと思った。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>私が現地の方に、日本語や英語のような私たちが理解することができる言語を用いて、案内などしていただいたことで現地での生活を楽しめたように、私も同じことができるようになりたいと思った。通訳案内士などのような役職にも憧れがあるが、まずは地道なところから取り組んで行くために、アルバイト先で道を聞かれたときや商品を聞かれたときに、積極的な会話を心がけようと思った。また、その先の目標として、語学留学やホームステイなどを経験したり、就職した際の海外勤務を経験したりすることを挙げる。この貴重な経験や感情の高まりを忘れることなく、何事にも積極的にチャレンジしていきたいと思う。</p>	